

令和5年度（2023年度）
第78回北海道教育研究所連盟研究発表大会（十勝大会）
兼第65回全国教育研究所連盟北海道地区研究発表大会



期日 令和5年8月31日（木）・9月1日（金）

会場 十勝教育研修センター・幕別町百年記念ホール

主催 北海道教育研究所連盟

主管 十勝教育研究所

後援 全国教育研究所連盟 北海道教育委員会
幕別町教育委員会 十勝管内教育研究所連絡協議会

目 次

I	開催要項	1
II	運営次第	3
III	第18次共同研究	5
IV	記念講演	7
V	部会研究発表一覧	8
	分科会 A	9
	分科会 B	11
VI	大会役員一覧	13

I 開催要項

1 趣 旨

北海道教育研究所連盟共同研究について研究協議を行うとともに、各加盟機関での教育研究、教員研修等の取組について交流・協議することにより、北海道教育の一層の充実・発展、並びに所員及び研究員、教職員の資質向上に資する。

2 主 催

北海道教育研究所連盟

3 主 管

十勝教育研究所

4 後 援

全国教育研究所連盟 北海道教育委員会
幕別町教育委員会 十勝管内教育研究所連絡協議会

5 期 日

令和5年（2023年）8月31日（木）、9月1日（金）

6 会 場

十勝教育研修センター（〒089-0531 北海道中川郡幕別町札内暁町290番地の2）
幕別町百年記念ホール（〒089-0563 北海道中川郡幕別町千住180番地）

7 実施方法

Zoomを使用したハイブリット形式（参加者が会場への参集又はオンラインでの参加を選択する形式）による開催

8 参加対象

北海道教育研究所連盟加盟機関の所員及び研究員、教育関係者、十勝管内教育研究所連絡協議会加盟機関の所員等

9 日 程

第1日 8月31日（木）

13:00	13:30	14:00	14:35	16:45
受付	開会式	全体発表	記念講演	

第2日 9月1日（金）

9:00	9:15	10:20	11:10	11:30	11:50	12:00
受付	研究発表 分科会A・B	協議(分科会毎)	まとめ	情報 提供	閉会式	
		所長研修会				

10 内 容

(1) 全体発表

第17次共同研究の成果と課題について

第18次共同研究の概要について

(2) 記念講演

演題 「一人一人の子どもを主語にする学校教育の実現に向けた教育研究所・研修センターの在り方」

講師 国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官 白 水 始 様

国立教育政策研究所教育政策・評価研究部研究員 廣 谷 貴 明 様

(3) 研究発表（加盟機関における特色ある取組）・協議

分科会A 「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の充実に係る取組」

・胆振教育研究所

「個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくり」

・標津町教育研究所

「『つながり』を踏まえた効果的な研修」

分科会B 「教職員の学びや働き方を支えるICT活用の在り方」

・根室教育研究所

「Web会議システムを活用して管内研究会、連盟と連携した定期セミナーの試み」

・北海道立教育研究所

「これからの学校教育の実現に向けた授業改善及び教員研修に関する研究の推進」

(4) 所長研修会

情報交換「令和時代の教育研究所・センターの運営について」

(5) まとめ

研究発表、協議を踏まえた助言等

講師 国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官 白 水 始 様

国立教育政策研究所教育政策・評価研究部研究員 廣 谷 貴 明 様

(6) 情報提供

独立行政法人教職員支援機構の取組・事業内容について

独立行政法人教職員支援機構審議役（併）次世代型教職員研修開発センター長

佐 野 壽 則 様

Ⅱ 運営次第

【第1日 8月31日（木）】

1 開会式 13:30～13:50

(1) 開式の言葉

(2) 主催者挨拶 北海道教育研究所連盟委員長 中 澤 美 明
(北海道立教育研究所長)

(3) 祝辞 全国教育研究所連盟委員長 瀧 本 寛 様
(国立教育政策研究所長)

北海道教育庁十勝教育局長 新 山 知 邦 様

(4) 来賓紹介

(5) 閉式の言葉

2 全体発表 14:00～14:20

第17次共同研究の成果と課題について

第18次共同研究の概要について

令和5年度(2023年度) 共同研究推進委員会委員長

(十勝教育研究所員) 山 本 由 佳

3 記念講演 14:35～16:45

演題 「一人一人の子どもを主語にする学校教育の実現に向けた教育研究所・研修センター
の在り方」

講師 国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官 白 水 始 様

国立教育政策研究所教育政策・評価研究部研究員 廣 谷 貴 明 様

【第2日 9月1日（金）】

1 部会（研究発表・協議） 9:15～11:00

○ 分科会A 『個別最適な学び』と『協働的な学び』の充実に係る取組

会場：十勝教育研修センター講堂

・胆振教育研究所

「個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくり」

・標津町教育研究所

『『つながり』を踏まえた効果的な研修」

○ 分科会B 「教職員の学びや働き方を支えるICT活用の在り方」

会場：幕別町百年記念ホール講堂

・根室教育研究所

「Web会議システムを活用して管内研究会、連盟と連携した定期セミナーの試み」

・北海道立教育研究所

「これからの学校教育の実現に向けた授業改善及び教員研修に関する研究の推進」

2 所長研修会 10:20～11:00

情報交換「令和時代の教育研究所・センターの運営について」

3 ま と め 11:30～11:50

国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官

白 水 始 様

国立教育政策研究所教育政策・評価研究部研究員

廣 谷 貴 明 様

4 情 報 提 供 11:30～11:50

独立行政法人教職員支援機構審議役（併）次世代型教職員研修開発センター長

佐 野 壽 則 様

5 閉 会 式 11:50～

Ⅲ 第18次共同研究

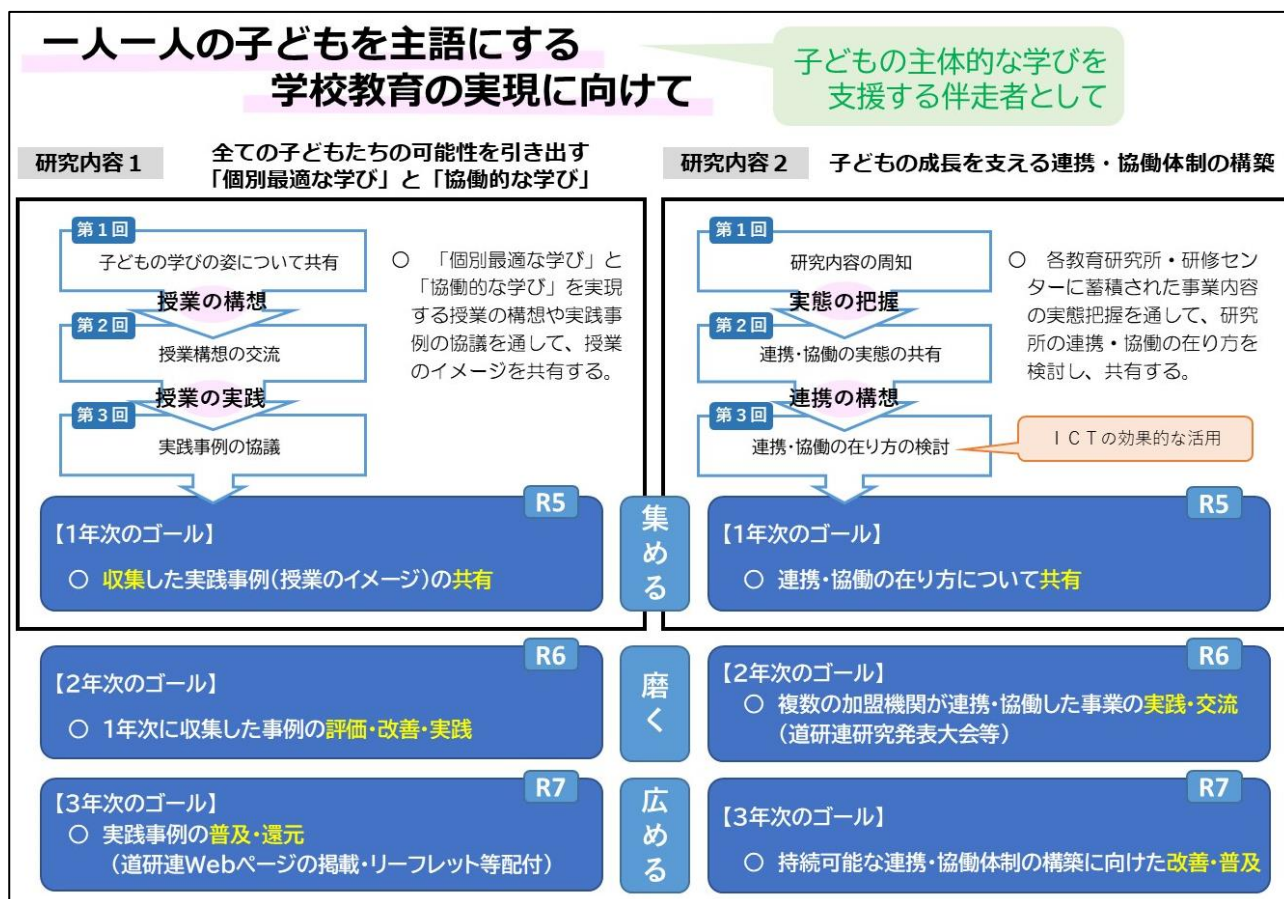
1 研究主題

「一人一人の子どもを主語にする学校教育の実現に向けて」

2 研究のねらい

各教育研究所・研修センターがより連携・協働できる体制を整備し、学校支援のために活用する、個別最適な学びと協働的な学びの実践事例の収集・提供をすることにより、子どもの主体的な学びを支援する伴走者としての能力の向上に資する。

3 研究内容及び推進計画



4 共同研究１年次（令和５年度）の取組

(1) 研究内容１（全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」）

○ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業のイメージの共有

<動画における授業のイメージ>

- ・生徒が、自分のペースに合わせて学習している。
- ・生徒同士の対話により、授業が進んだり、課題解決したりしている。
- ・アウトプットを中心とした主体的な学びになっている。
- ・端末の機能を存分に生かしている。

<このような授業においてポイントとなりそうなこと>

- ・教員間で授業のイメージを共有すること。
- ・一人一人が学習に向かうための目的意識のもたせ方。
- ・児童生徒のコメントの生かし方。
- ・個人のペースで進められるが、それが難しい子どもへの支援や子ども同士の助け合いが必要。

○ 第２回目の共同研究推進委員会で授業の構想を交流後、第３回目までに実践事例を収集

(2) 研究内容２（子どもの成長を支える連携・協働体制の構築）

○ 各教育研究所・センターの連携・協働の実態の共有

- ・提出された各教育研究所・センターの要覧を基に、実践事例を収集

○ 各教育研究所・センターの連携・協働の在り方の検討

(3) 夏季所員学習会の実施

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業についての講義・交流を行った。

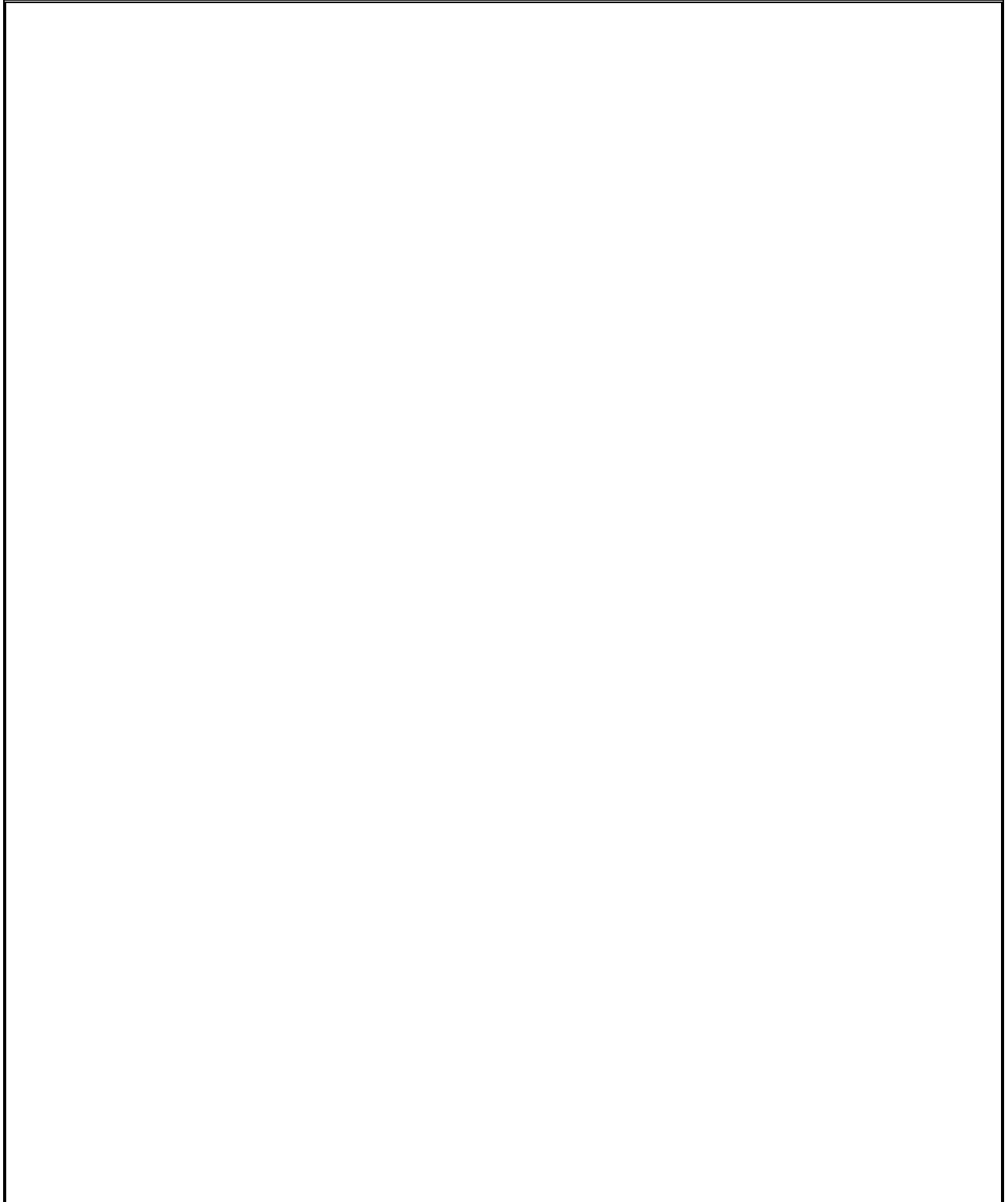
- ・講師 北海道立教育研究所長 中 澤 美 明

Ⅳ 記念講演

「一人一人の子どもを主語にする学校教育の実現に向けた教育研究所・研修センターの在り方」

講師 国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官 白 水 始 氏

国立教育政策研究所教育政策・評価研究部研究員 廣 谷 貴 明 氏



V 部会研究発表一覧

1 日程（9月1日（金））

9:00	9:15	10:05	10:20	11:10	11:30	11:50	12:00
受付	分科会A・研究発表	休憩・移動	分科会A・協議	まとめ	情報提供	閉会式	
	分科会B・研究発表		分科会B・協議				
			所長研修会				

2 分科会A 【会場：十勝教育研修センター講堂】

『個別最適な学び』と『協働的な学び』の充実に係る取組

司会 帯広市教育研究所員 藤原 悠 大

発表内容	発表機関・発表者	頁
○ 個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくり	胆振教育研究所 黒川 知恵	8
○ 「つながり」を踏まえた効果的な研修 ～同校種連携（幼幼、小小、中中高）や学力向上の実践交流の推進による標準型学習スタイルの充実～	標津町教育研究所 近藤 啓之 佐藤 博康	9

3 分科会B 【会場：幕別町百年記念ホール講堂】

「教職員の学びや働き方を支えるICT活用の在り方」

司会 帯広市教育研究所員 藤島 広 大

発表内容	発表機関・発表者	頁
○ Web会議システムを活用して管内研究会、連盟と連携した定例セミナーの試み ～「専門性」に触れ「学び続ける」研修の機会の充実を目指して～	根室教育研究所 水口 拓真	10
○ これからの学校教育の実現に向けた授業改善及び教員研修に関する研究の推進	北海道立教育研究所 八重澤 純一	11

4 所長研修会 【会場：十勝教育研修センター音楽室】

意見交換の内容
○ 教育研究所・センターの取組や実際について
○ 今後の道研連について

5 まとめ 【会場：十勝教育研修センター講堂、幕別町百年記念ホール講堂】

国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官

白水 始 様

国立教育政策研究所教育政策・評価研究部研究員

廣谷 貴明 様

研 究 テ ー マ

個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくり

研 究 の 内 容

1 研究テーマの趣旨

Society5.0 時代が到来し、急激に変化する時代の中で、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識することや、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。

そのため、当研究所では、全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくりを推進するため、授業実践や学びのポイントについて、学校訪問等を通して研修を進めた。

2 研究の概要

(1) 個別最適な学びと協働的な学びの授業改善について

ア 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

- ・一体的な充実の姿についての共通認識を検討
- ・北海道教育委員会作成の「教育課程改善の手引」を活用し、授業の場面での具体的な改善方法について紹介

(2) 個別最適な学びと協働的な学びの具体的な実践について

ア 4つのパターンに分けた授業実践の紹介

- ・個別最適な学び、個別最適な学びと協働的な学びが交互に行われている、個別最適な学びと協働的な学びが同時に行われている、単元計画内での個別最適な学びと協働的な学びについて、指導案を活用して実践事例を紹介

(3) 各教科における個別最適な学びと協働的な学びのポイントについて

ア 各教科の特性に合わせた事例の紹介

- ・ICTの活用場面を含め、各教科のポイントについて検討
- ・学年や単元を設定し、具体的な事例を紹介

成果と課題、今後に向けて

〔成果〕

- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のため、2つの側面から授業改善の方向性についてまとめることができた。
- 本研究所の委託校・実践校を中心に、胆振管内の実践事例を紹介することにより、個別最適な学びと協働的な学びの具体的な姿を管内の小・中学校に情報発信することができた。

〔課題〕

- 個別最適な学びと協働的な学びを、1単位時間の授業の中でどのように位置付けるのかということについて研究が必要である。

〔今後に向けて〕

- ・ICTの有効的な活用も含めて、各教科においての単元計画の作成を行なっていく。

(担当 黒 川 知 恵)

研 究 テ ー マ	
「つながり」を踏まえた効果的な研修 ～同校種連携（幼幼、小小、中中高）や学力向上の実践交流の推進による標津型学習スタイルの充実～	
研 究 の 内 容	
1	研究テーマの趣旨 標津町教育研究所は標津町の幼小中高の代表(数名)を構成メンバーとし、活動をしている。各校の実践を交流したり、系統性を検討し教育課程を整備したりするなど標津町全体によりよい実践が普及・発展することが期待できる。そこで、研究テーマを『「つながり」を踏まえた効果的な研修』と設定した。
2	研究の概要 (1) 標津町教育研究所の活動 ① 運営方針 標津町の基本理念を実現するために、「理論と実践」の研究を行い、教育の推進に努める。 ア 研究の推進 標津町における教育の課題に関する研究の推進と教育の一層の充実 ・標津町の子どもたちの学力向上と体力向上を目指した教育、「ふるさと標津」に根ざした教育、園小中高の連携を目指した教育の研修推進 ・教職員の資質向上を目指す研究会の開催や研修における支援 ・「北海道教育研究所連盟」等との連携による研究推進 イ 教育関連事業の推進 町内の児童生徒の教育活動への支援を積極的に推進する ・児童生徒の学習交流や発表の諸活動の主管 ・各教育関連組織、団体との連携、協力 ウ 教育情報の収集と発信 最新の教育資料を収集、教育研究に関する情報を積極的に発信 ・研究紀要「教育標津」の発行により、標津町のエducational情報を発信する。 ・所報「しべつ教育」の発行により、さまざまな教育情報を発信する。 ② 標津町教育研究所及び関連事業構成図(略) (2) 研究部の取組 今年度の取組について「小・小連携」のための取組を例として ① 各校の研修について ア 川北小学校 川北小学校では、「マイプラン学習」、児童主体の学びになるよう「子ども先生学習」、異学年グループで自主的な学びを行う「学びタイム」の取組を行い、『個別最適な学び』『協働的な学び』の在り方についての研修を進めている。 イ 標津小学校 標津小学校では「自分から進んで表現する子どもの育成」を研究主題として設定し、見通しを立てたり振り返ったりする学習活動を計画的に位置付けることや思考し、表現する力を高めるモデルを活用することを通じ、主体的・対話的で深い学びを目指すための研修を行っている。 ② 今年度の研究テーマを具現化するための研究部の取組として 上記の2校の研修での取組について、それぞれの研修のよさを共有し「つなげる」ことを目指し、そのための方法として、Teamsを活用し「小・小連携チーム」を立ち上げ、Teams上に各校の研修計画・日程や指導案を上げ、日常的な研修の交流を行えるようにした。 またその中で、それぞれの学校における研修テーマに基づいた授業づくりについて交流したいという意見があったことから、7月に「授業づくり CAFE」と題し、授業づくりを両校の教員が共同で行う研修会を行った。
成果と課題、今後に向けて	
〔成果〕○ ICTを活用し各校の研修を「つなぐ」ことで、より多くの意見等が集まり、各校が単独で研究を進めるより、効率的に『個別最適な学び』と『協働的な学び』を作っていくための研修の充実を図ることができた。 〔課題〕● ICTの活用により同校種間の連携が図られるようになり、それぞれの学校の研究の概要をこれまで以上に知ることができたが、より深く理解し自らの授業の改善につなげる必要がある。 〔今後に向けて〕 ICTの活用を進めつつ、各校の教員の対面による交流も計画的に設けることで、これまで以上に「つながり」の場面を作り、両校の研究推進と各教員の授業力の向上を図りたい。	

(担当 佐藤 博 康)

研 究 テ ー マ
Web会議システムを活用して管内研究会、連盟と連携した定例セミナーの試み ～「専門性」に触れ「学び続ける」研修の機会の充実を目指して～
研 究 の 内 容
1 研究テーマの趣旨 本研究所の理念の一つに、「各研究会、連盟の振興や研究/実践を通して、根室管内の教育実践の質の向上に貢献すること」がある。その実現のため、これまでに管内各研究会、連盟、そして専門性が高い教員を一堂に集めた「ねむろ教育フェスティバル」を毎年開催してきた。 現在、『令和の日本型学校教育』を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて」（中教審）では、教師が変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続ける重要性や、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成が述べられている。これまで以上に、「専門性」に触れ、「学び続ける」機会の提供が本研究所に求められていると考えている。 そこで、本研究所では昨年度より、Web会議システムZoomを活用したショートオンライン講座「マンスリーアップグレードセミナー」を毎月3回開催している。管内研究会、連盟、研究所所員や専門性が高い教員（オーソリティ教員）と連携しながら開催している本セミナーも2年目を迎え、成果と課題が見えてきた。 2 研究の概要 (1) 各研究会、連盟、オーソリティ教員との連携について ア 各研究会、連盟や、研究所所員、オーソリティ教員への周知、趣旨説明と連携 ・ニーズや今日的課題に応じたテーマ設定とオーソリティ教員の配置 (2) 運営の方法について ア 開催時刻の協議、設定 イ 案内、周知や集客方法の工夫とアーカイブ動画配信 ・Google form や公式 LINE アカウント、YouTube 限定公開機能等の活用 ・チャット機能を活用したセミナー資料送付
成果と課題、今後に向けて
〔成果〕 ○ R4年度は20回開催することができ、5研究会と4人のオーソリティ教員と連携した。また、延べ253名の参加があった。 ○ 「理科とICT」「保健室」「図工/美術の評価」「家庭科とICT」等、多様なテーマで開催して研修の機会を提供することができた。 〔課題〕 ● 開催月や校種、教科や内容が絡み合い、各回参加者数の増減が見られる。 ● 多忙な教職員が参加しやすい開催時刻の設定を一層工夫する必要がある。 〔今後に向けて〕 ・研究所からの依頼ではなく、各研究会等がこのセミナーの機会を活用して自主的に参画、活用できるような仕組みづくりや提案をしていく。

(担当 水 口 拓 真)

研 究 テ ー マ
「新たな教師の学びの姿」を実現するための教員研修に関する研究
研 究 の 内 容
1 研究テーマの趣旨 北海道立教育研究所（以下、道研）では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する対策が必要な中、集合型研修以外の効果的な研修様式を模索し、令和2年度から「道研の新しい研修様式」として、「集合型研修」の他に、「分散型研修」、「オンデマンド型研修」、「遠隔型研修」、「紙上研修」といった、ICTを積極的に活用した多様な研修様式で研修を実施してきた。 道教委は、令和3年3月に「学校における働き方改革北海道アクション・プラン（第2期）」において、道内の学校に働き方改革を進めるための業務改善の方向性を示し、ICTを積極的に活用した業務等の推進、教職員が本来担うべき業務に専念できる環境の整備、勤務時間を意識した働き方の推進と学校運営体制の充実、教育委員会によるサポート体制の充実などを進めている。 また、令和4年12月19日、中央教育審議会の答申では、「新たな教師の学びの姿」が示され、「主体的な姿勢」、「継続的な学び」、「個別最適な学び」、「協働的な学び」の4つの姿を身に付ける研修講座の企画・運営が求められている。 これらのことから、令和5年度、道研では、教職員の業務改善と資質能力の一層の向上に繋げるため、『新たな教師の学びの姿』を実現するための教員研修に関する研究」を所内が一体となって進めることとした。 2 研究の概要 研修講座基本形の策定と試行、改善 <視点> ・ 個別最適な学び、協働的な学びを取り入れた講座の流れの工夫 ・ 主体的に参加し、学びを継続する工夫
成果と課題、今後に向けて
〔改善してきたこと〕 ○ 遠隔型研修の冒頭にブレイクアウトで課題の確認 ○ 全ての個別の課題に対応（講師との事前打合せ） ○ グループ協議の際、状況によって運営者がファシリテートする ○ 遠隔型研修における、Web 会議システムと Google Classroom を併用した協議、演習の工夫 〔今後に向けて〕 ・ 受講者アンケートの分析による「研修全体の流れ、研修内容、構成の見直し」、「グループ交流・協議の改善」、「講師、専門性の高い関係機関の洗い出し」 ・ より安定した遠隔型研修の工夫

(担当 藤 谷 宏 一)

VI 大会役員一覧

大会長	中澤美明	北海道教育研究所連盟委員長（北海道立教育研究所長）
副大会長	佐藤圭一	北海道教育研究所連盟副委員長（札幌市教育センター所長）
	山田洋	北海道教育研究所連盟副委員長（十勝教育研究所長）
	北野浩幸	北海道教育研究所連盟副委員長（網走地方教育研修センター所長）

【北海道教育研究所連盟事務局】

事務局長	奥寺正史	（北海道立教育研究所副所長）
事務局次長	山崎貴之	（北海道立教育研究所総務部長）
	飯塚俊郎	（北海道立教育研究所連携推進担当部長）
事務主幹	飯沼恭子	（北海道立教育研究所総務部事業課長）
研究主幹	市村慈規	（北海道立教育研究所教育課題研究部研究主幹）
事務局員	土山真紀	（北海道立教育研究所総務部事業課主査）
	藤谷宏一	（北海道立教育研究所教育課題研究部主査）
	長森久志	（北海道立教育研究所教育課題研究部主査）
	野家義和	（北海道立教育研究所教育課題研究部主任研究研修主事）
	八重澤純一	（北海道立教育研究所教育課題研究部研究研修主事）
	甲谷聡枝	（北海道立教育研究所教育課題研究部研究研修主事）
	大橋龍	（北海道立教育研究所総務部事業課主事）

【運営委員会】

委員長	山田洋	（十勝教育研究所長）
副委員長	横山一仁	（十勝教育研究所副所長）
事務局長	松村理史	（十勝教育研究所主任所員）
委員	柴田悠二	白澤大輔
	山本由佳	粂山修斗（十勝教育研究所員）

【令和5年度(2023年度)共同研究推進委員会】

委員長	山本由佳	（十勝教育研究所員）
副委員長	八重澤純一	（北海道立教育研究所教育課題研究部研究研修主事）
委員	佐々木孝行	（石狩教育研修センター指導員）
	鶴見卓哉	（後志教育研修センター研修部長）
	河野翼	（上川教育研修センター研究員）
	柳谷武志	（留萌管内教育研究所研究員）
	黒川知恵	（胆振教育研究所員）
	棟方伸吾	（室蘭市教育研究所主任所員）
	小林拓未	（釧路教育研究所員）
	横内 のぞみ	（札幌市教育センター指導主事）
	芳賀均	（北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター員）
	甲谷聡枝	（北海道立教育研究所教育課題研究部研究研修主事）